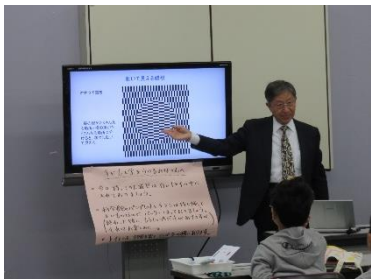


さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和 6年 11月 16日(土)		
事業名	ちば子ども大学		
趣 旨	大学、研究所、企業、関係機関等と連携し、多様な主体の力を結集することで、子どもたちの知的好奇心を育み、学ぶ意欲を高めることのできる様々な講座を実施し、「ホンモノ」から学ぶ楽しさを体感することで、子どもたちの自らの学びを広げ、深めることを目的とする。		
会 場	千葉県立現代産業科学館 研修室		
対 象	小学校4年生～中学校3年生		
申込方法	Web申込		
募集定員	40名	募集期間	令和 6年 10月16日から令和 6年 10月22日
参加者数	27名	参加費用	無料
講師 等	明治大学 研究・知財戦略機構 先端数理科学インスティテュート 研究特別教授 杉原 厚吉 氏		
実施内容	内容:「ふしぎ体験！立体錯視アートの世界」 算数・数学を応用して作られる立体錯視アートを第一人者から学ぶ 日程:午前9時55分～午前10時 オリエンテーション 午前10時～午前11時50分 講義・企画展見学・工作体験 午前11時50分～正午 アンケート記入、閉講  錯視が起こる仕組みの説明  錯視アート工作体験  鏡の前で見え方を確認		
参加者 アンケート	【満足度 100%】 ○とても楽しかった。おもしろかった。 ○自分で立体錯視アートを作れて楽しかった。 ○錯覚の仕組みがわかって勉強になった。 ○錯視アートを勉強したり、見たりするだけでなく、実際に作る体験をすることができてとても楽しかった。 ○普段できないことができて楽しかった。実際に見てみることで新たな発見ができた。		

	○内容が難しいところもありましたが、画像や動画を使い、わかりやすく説明していただき、楽しかった。 ○似たような講座があったら参加したい。 ○いろいろな錯視や知らない錯視が、どうしてそうなるのか実物を見たり説明を聞いたので勉強になった。 ○最初は難しいかなと思ったけど、すごく簡単にできて、すごく楽しかった。 ○最初の説明で見たものを実際に見られておもしろかった。自分でも錯視アートを作れるとは思わなかったからびっくりした。 ○工作は難しいけど、体験が知識になった。 ○家で鏡で見てみたい。 ○鏡に映して高さが変わる階段は作るのが難しいと思っていたが、自分で完成させることができ嬉しかった。 ○先生の説明がわかりやすく、錯視アートを知ることができて楽しかった。学校では知ることができないことを教えてもらえて嬉しかった。 ○工作が完成して、確かめて、成功して嬉しかった。
担当者の 所感	【成果】 ・本事業の趣旨については、数理工学者による錯視研究の講義と体験指導により、本事業のコンセプトである「世の中のふしぎについて学ぶ」と「体験を通して新たな価値観を学ぶ」を達成するとともに、「ホンモノ」から学ぶ楽しさや子どもたちの自らの学びを広げ、深めるという目的を実現することができた。 ・講座内容については、前半が講義、後半が工作という、座学と体験を組み合わせた構成は、子どもたちの知的好奇心や学ぶ意欲を高めるものとなった。 ・受講生のアンケートについては、満足度が100%と高い結果が得られた。講座途中に講師の作品の企画展の見学を取り入れたことも効果的であった。 ・支援体制については、現代産業科学館のボランティアスタッフによるサポートにより、円滑に講座を進めることができた。 ・支援内容については、職員やボランティアスタッフが子どもたちの様子を観察し、適切に声掛けをしたり、支援を行ったりしたことで、移動や工作中も怪我等なく活動できた。 【課題・今後の方向性】 ・会場については、今回は科学的な内容の講座であり鏡が必要であったが、現代産業科学館は実験道具を取り揃えており、借りることができた。会場提供していただいたことは適していた。講座内容によって会場を考慮すると、講座がより充実すると考える。 ・実施時期については、子どもたちが参加しやすい夏休み中が適していると考え。検討が必要である。 ・ボランティアについては、現代産業科学館のボランティアスタッフを依頼したことで、滞りなく講座運営ができた。当所とは別会場で実施する場合は、会場の担当職員と講座内容や運営方法についての打合せを密に行うことが重要である。